

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(132)、(165)」

2. 日時：令和4年12月21日（水）13時30分～15時35分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、西来主任技術研究調査官、松末技術参与、馬場係員、田島主任技術研究調査官※

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員
中川原子力土建部長 他7名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年11月29日に受領済み>>

- ・浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・浜岡原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動について
- ・浜岡原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	はい地震津波審査部門スズキですそれでは時間になりましたので浜岡原子力発電所の震源を特定せず策定する地震動について、
0:00:13	これの1回目ですかねヒアリングを開始します。
0:00:19	資料としては資料の本体とあと補足説明資料ということで、
0:00:24	いただいて、11月29日付からいただいてますので、まず資料の説明の方を、中部電力の方からお願いします。
0:00:34	はい。中部電力浜野でございます。
0:00:37	今鈴木さんからご説明ありました通り浜岡原子力発電所震源を特定せず策定する地震動につきまして、第1回目のヒアリングということでよろしくお願ひしたいと思ひます。
0:00:49	1回目ということで、説明、丁寧にさしていただきたいので1時間ほどいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
0:00:58	はい。よろしくお願ひします。
0:01:06	中部電力の石川ですよろしくお願ひいたします。
0:01:11	資料は本編資料等補足説明資料それぞれ一部用意しております。本編資料の方用ひまして説明をしていきます。
0:01:20	本資料では1ページに示す策定の全体像のうち、F写真に示す箇所を説明していきます。
0:01:28	2ページに目次を示します。こちらに示す通りですけれども、構成としては10月に提出した資料から2-1の敷地における地盤増幅特性と地震動評価への反映方法が追加となっております。
0:01:42	それでは順に説明をしていきます。
0:01:45	まず3ページから一章の概要についてです以上は評価検討方針と結果変更点がこのみでわかるように資料の方を作成しております。
0:01:57	4ページ検討概要です。上段箱書きの通り、特定せずの地震動については、規則の解釈やガイドを踏まえて策定することとし、その策定にあたっては全国共通に考慮すべき地震動と地域性を考慮する地震動を検討します。
0:02:13	結果、下の報告の通りですけれども、全国共通に考慮すべき地震動については、標準応答スペクトルに基づき敷地の解放基盤表面との地盤物性の挿入利益を考慮した地震動を応答スペクトルに基づく地震動として考慮し、
0:02:27	また2004年北海道留萌支庁南部の地震、これ以降、2004年留萌地震と言ひますけれども、この港町観測点の観測記録に基づき、同様に地盤物性

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	の相違による影響を考慮した地震動を、2004年留萌地震の基盤地震動に基づく、
0:02:42	地震動として考慮します。
0:02:45	江藤地域成功率地震動につきましては、2008年岩手宮城内陸地震等2000年鳥取県西部地震の震源域周辺と浜岡の敷地周辺について、特徴を整理して比較した結果、
0:02:56	地域差が認められることから、これらの地震動を地震の観測記録は収集対象外としております。
0:03:05	5ページのページには特定せずの評価の前段として特定してのまとめの審査で示した敷地における地盤増幅特性のまとめを示しております。
0:03:16	簡単に説明します。地盤増幅特性についてはまず地震観測記録の分析としまして、上段に示すように、2009年駿河湾の地震において号炉観測記録の一部の周期の地震のレベルが大きくなることを確認し、
0:03:30	中段に示す、その他の地震を含めた分析から、5号炉周辺観測点においてN30Eから72という特定の到来方向の地震はのみ顕著な増幅が見られることを、
0:03:42	その増幅の程度は一樣ではなく、地震は入射角の鉛直に近づく敷地近傍の人ほど、顕著な増幅が見られないということを確認し、これらの結果から、5号炉周辺の増幅要因は、
0:03:53	局所的に分布する浅部地盤のS波速度が低下した不均質構造等を考えました。
0:04:00	これについて6ページの上段に示すような地下構造調査で、そのようなSRS度数を確認し、これを含む3次元地下構造モデルを用いて解析検討から、
0:04:11	増幅メカニズムがイソダて速度層によるフォーカシング現象であると分析しております。
0:04:18	このような地盤属特性を踏まえた特性鉄、特定せずの各評価の概要を、7ページから順に示します。
0:04:27	まずは標準応答スペックに基づく地震動の、通常増幅なしの評価の概要についてで、方針はまず黄色の箱書きに示す通りです。
0:04:38	標準応答ステップに基づく地震動は策定された標準応答スペクトルに基づき、敷地の解放基盤表面との地盤物性の相違による影響を考慮して評価し、その影響の考慮は下の図に示す通り、
0:04:49	敷地の1次元地下構造モデルの地震基盤相当面に地震、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:54	模擬地震を入力し、
0:04:55	敷地の解放基盤表面における地震動を評価することにより行います。
0:05:00	その具体的なものが中段の箱書きとなっております。
0:05:04	一つ目の○評価の流れは今説明した通りD I S二つ目の丸、ここで用いる敷地の1次元地下構造モデルは、
0:05:12	地下構造調査による獲られた詳細な地下構造データ等に基づき設定し、敷地の観測記録の再現検討を踏まえてその妥当性を確認した。
0:05:21	檀断層モデル法による評価における統計的グリーン関数法のために設定した保守的なS G Fモデルを用いました。
0:05:29	三つ目の丸、地震基盤相当面は、 V_s の値に基づき、 V_s 2470メートル／secのTP-3550メートルのところに設定をしました。
0:05:40	つめの丸、地震基盤相当面における模擬地震は、一応乱数の位相を用いた方法で作成し、
0:05:47	その時の振幅包絡線の日変化はノダイトウル2002の方法により、保守的な全 $O X e q$ は10キロとして設定をしました。
0:05:58	五つ目の丸、またその違いが地震基盤相当面から解放基盤表面までの電波の特性に与える影響を確認するため、実観測記録の位相を用いた方法により、
0:06:09	敷地の観測記録を用いて模擬地震を作成して検討し、一応乱数の地震動を、を用いることの妥当性を確認しました。
0:06:21	8ページは、2004年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動の増幅なしの評価の概要です。
0:06:28	方針は黄色の箱書きの通り、
0:06:31	2004年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動は、この地震の港町観測点の観測記録に基づき、敷地の解放基盤表面との地盤物性の相違による影響を考慮して評価し、
0:06:43	その影響の考慮は、先ほど同様、敷地の1次元地下構造モデルの港町観測点の基盤層に相当する層に、
0:06:50	基盤地震動の検討、検討結果を入力し、敷地の解放基盤表面における地震動評価することにより行います。
0:06:58	具体的には中段箱書きに示す通りです。
0:07:01	一つ目の○評価の流れは今説明した通りですが、ここでは、基盤地震動として佐藤ほか2013によるものを用いました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:10	一つ目の丸基盤地震動の追加検討は、妥当性の確認として、室内試験結果減衰定数の不確かさ、P S 検層の再測定結果、地下水の状況を踏まえた検討を実施しました。
0:07:24	三つ目の丸、敷地の1次元地下構造モデルとしては先ほどと同様に、S G F モデルを用いました。
0:07:31	四つ目の丸、港町観測点の基盤、基盤相当名は、T P -192 メートルにおけるV s 960 メーター／s e c の地層に設定をしました。
0:07:45	9 ページ 10 ページですが、先ほど説明した通り敷地では一部で顕著な増幅が見られますので、
0:07:53	この地盤と、地盤増幅特性を踏まえた全国共通に考慮すべき地震動の、地震動の顕著な増幅を考慮する、増幅ありの地震動評価について資料をまとめております。
0:08:05	方針は黄色の箱書きの通りで、さて速度層の影響により見られる顕著な増幅については、特定施設の評価と、敷地の地盤増幅特性に関する、地震観測記録及び地下構造調査結果に基づく分析結果との関係を検討し、
0:08:21	標準応答スペクトルと、2004 年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動の評価では、増幅ありの評価を行わないこととしました。
0:08:31	具体的にはその下に記載をしております。
0:08:34	9 ページにはまず事実として大きく二つ、特定せず策定する地震動の評価と、敷地における地盤増幅特性について記載をしております。
0:08:43	一つ目特定せずの地震動の評価については、震源断層を設定せず、震源と活断層を関連づけることが困難な過去の内陸地殻内の地震について獲られた。
0:08:54	震源近傍における観測記録をもとに評価を行うものであります。
0:08:59	二つ目、敷地の地盤増幅特性については、
0:09:01	先ほど説明しましたが顕著な増幅はS波低速度層によるフォーカシング現象によるものであり、顕著な増幅は、号炉周辺の特定の到来方向のみに見られ、
0:09:11	敷地近傍では見られません。
0:09:15	これらを踏まえて10ページのポチで二つ示す観点から、全国共通に考慮すべき地震動の評価では、増幅ありの評価は行わないこととしました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:26	1 点目は県庁の増幅側特定の方角の実施のみに見られて、この敷地の地盤増幅特性は、震源断層のうち、増幅方向に当たる範囲によって異なることから、
0:09:37	その範囲を反映した、批判して、現地の増幅を考慮した評価を行う方針としており、
0:09:43	先ほど説明した通り、震源断層は、を設定せずに行う特定施設の評価では、その範囲を設定した評価を行わないと考えられますが、
0:09:52	震源断層を設定する特定しての評価においてこれを反映し、増加の評価を行っていること。
0:10:00	2 点目は、顕著な増幅は特定の到来方向の地震における 5 号炉周辺の観測点を除き認められないことを確認しており、
0:10:08	その増幅については、阿蔵病院については、下の図、赤の破線に示すように、S R S 部層に斜め入射する際のフォーカシング現象とを分析するとともに、
0:10:19	存続方向であっても、黒の破線で示すような、敷地近傍の地震ほど顕著な増幅が見られない傾向があることを確認していることから、
0:10:28	市震源近傍の観測記録に基づく特定施設の評価において対象とする敷地近傍の地震では S 波低速度層抜けようによる顕著な増幅は生じないと考えられるという意見です。
0:10:43	川手 11 ページは地域性を考慮する地震動のうち、2008 年岩手宮城内陸地震の概要です。
0:10:51	方針は黄色の箱書きの通りで、3 行目からですが、ガイドの記載に対応するものとして、検討対象とした 2008 年岩手宮城内陸地震については、
0:11:02	金駅周辺の特徴を整理した上で、震源域周辺投資、敷地周辺について特徴を比較し、特徴が類似する場合には、観測記録の収集対象といたします。
0:11:13	具体的には表に示す複数の項目について両者の特徴を整理して比較し、その結果、いずれも地域差が認められることから、観測記録の収集対象外としております。
0:11:27	12 ページは 2000 年鳥取県西部地震の概要について同様に示してしております方針、結論については同じものとなっております。
0:11:38	以上の評価検討の結果、13 ページに示す地震動を特定せず策定する地震動として浜岡では考慮します。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:49	変わりまして 14 ページは 1041 回会合での標準応答スペクトルに関するコメントとその回答概要です。
0:11:57	コメントを読み上げますが、標準応答スペクトルに基づく地震動に関する補正申請において、断層モデル法による評価で用いる地下構造モデルとは異なるモデルが用いられているが、
0:12:08	先行サイトの審査でもコメントしている通り、その理由の説明が必要であり、
0:12:13	地下構造モデルの震災以降にそのような調査や部検討分析の追加が新たに行われて行われ、行われていなければ、
0:12:21	地下構造モデルを新たに設定する妥当性が言えないことを、
0:12:25	もし新たなデータで換えられたことにより、新しく設定した地下構造モデルを用いるということであれば、これまで審査してきた断層モデル法の地下構造モデルや評価結果についても、再度審査する必要が生じ、
0:12:39	審査の長期化に繋がる部分もあることも踏まえて、標準応答スペクトルに基づく地震動の評価方針を説明することのコメントがありました。
0:12:48	その回答概要を右側に示しますが、具体的には 13、15 ページに示す通りなのでそちらで説明します。
0:12:58	15 ページですが評価方針について箱書きですが、
0:13:02	まず評価に用いる地下構造モデルについては、補正申請では、敷地の近くを地震観測記録に基づき、最適化設定した最適化モデルを用いましたが、
0:13:12	先ほどのコメント等を先行サイトの審査を踏まえまして、
0:13:16	S G F モデルと同じものを用いることに変更しました。
0:13:20	また、僕自身については補正申請では、振幅包絡線の揭示変化を M6.9 で設定して作成していましたが、
0:13:28	先行サイトの審査を踏まえて、M7.0 で設定して作成することに変更しました。
0:13:34	変更前後の比較として、図では左に補正申請右側に今回の評価結果を示しております。
0:13:44	16 ページには特定施設全体の当初申請からの変更点を示します。
0:13:50	左側当初申請では、青で示す、加藤ほか 2004 の応答スペクトルと、緑の破線で示す 2004 年留萌地震の基盤地震動を考慮していましたが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:00	規則の解釈等の一部改正を受け、今回は右側赤で示した標準応答スペクトルに基づく地震動と、緑の実線で示す 2004 年の地震の基盤地震動を考慮しています。
0:14:13	ここでカトウ間の応答スペクトルは、標準応答スペクトル標準応答スペクトルがこれを上回る地震動レベルとして策定されていることから、今回考慮しないこととし、
0:14:23	2004 年留萌地震の基盤地震動については、敷地の解放基盤表面との地盤物性の層による影響を考慮している点が、当初申請とは異なっております。
0:14:34	以上が一章の概要の説明になります。
0:14:40	次に 17 ページから二章の全国共通に考慮すべき地震動について説明をしていきます。
0:14:47	まず敷地における地盤増幅特性と地震動評価への反映方法についてです。
0:14:54	18 ページに概要を示します。
0:14:57	敷地における地盤増幅特性と地震動評価への反映方法については、1041 回の会合で特定してのまとめ資料を作成して説明する際に、
0:15:07	地盤増幅特性の分析結果及びそれを踏まえた評価方針、並びに特定しての評価への、地盤増幅特性の反映方法についてのまとめ資料を作成して説明をしました。
0:15:18	その時の資料を今回補足説明資料として用意しております。
0:15:23	ここでは地盤増幅特性の評価への反映方法の全体像を示しつつ、特定施設の評価への反映方法について説明するため、
0:15:32	まずは特定して説明したそれらについて概要を改めて示しまして、そのあとを特定施設の評価への反映方法を具体的に説明していきます。
0:15:45	まず 19 ページ 20 ページには一章でご説明した敷地における地盤増幅特性の分析結果を再掲しております。
0:15:56	過去の周辺で見た場合の地盤増幅特性を、21 ページにまとめて示します。
0:16:03	地盤増幅特性の分析として実施した地震観測、地下構造を伝播経路の下、伝播経路の観点での分析から、4 号の周辺は赤字の通り、顕著な増幅は見られず、平行成層地盤とみなせ、
0:16:17	5 号炉周辺は緑字の通り、一部の方向で検討の増幅が見られ、査定速度層の影響が見られるものとなっております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:26	22 ページには地盤増幅特性の分析結果を文章でまとめて示します。
0:16:34	これらの地盤増幅特性を踏まえた地震動評価の方針の概要を、23 ページから示します。
0:16:41	敷地では下段に示す通り、増幅を考慮しない増幅なしの地震動評価と、増幅を考慮する、増幅ありの地震動評価を実施することとし、
0:16:51	意識しないに、検知の増高を考慮しない、増幅なし領域と、増幅を考慮する、増幅あり領域を設定します。
0:17:00	この領域と評価の対応は、下の図に示す通りとなっております。
0:17:06	24 ページには設定した増幅なしありの領域を示します。
0:17:14	25 ページ 26 ページは、増幅なし増幅ありの評価の方針です。
0:17:20	25 ページの増幅なしの評価については、4 号炉周辺等の検討の増幅が見られない領域の地震地盤臓器特性を踏まえ、下段に示す通り、
0:17:30	平行成層地盤として地盤像特性を保守的に考慮し、地震動評価を行うという方針です。
0:17:37	一方 26 ページの増幅ありの評価については、
0:17:41	5 号炉周辺の地震動の顕著な増幅が見られる所の領域の地盤増幅特性を踏まえ、下段に示す通り、査定速度層による 3 次元的な地下構造の影響を踏まえて、地盤像特性を保守的に考慮し、地震動評価を行うという方針です。
0:17:59	27 ページには浜岡の地震動評価全体として、敷地における地盤増幅特性を踏まえた地震動評価への地震動評価の方針を 1 枚にまとめて示します。
0:18:10	黄色ハッチングの部分に、解放基盤表面の設定、地震動評価への反映方法を地盤増幅特性の特定して、特定せずのそれぞれの評価への反映方法を、順に示しております。
0:18:23	解放基盤表面については標高 -14 メートルに設定し、
0:18:28	反映方法としては先ほど説明した領域の説明等を増幅なし、ありの評価の方針を記載しております。
0:18:37	28 ページに、特定しての評価への反映方法を示します。
0:18:41	1041 回の会合でのまとめ資料となっておりますけども、
0:18:45	増幅なしの評価では、下に示す 1 次元地下構造モデルを用いて、
0:18:50	統計的グリーン関数法と波数積分法によるハイブリッド合成法で評価を行います。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:56	また増幅ありの評価では、2009年駿河湾の地震の観測記録の再現検討により減少した増幅係数を乗じることで、
0:19:04	増幅を考慮した評価を行うことを行うとしております。
0:19:09	29ページに、この断層モデル法による評価で用いる1次元地下構造モデルの設定について示します。
0:19:17	ここまでは基本的に1041回の会合で説明したものとなっております。
0:19:22	1ページ飛んで、
0:19:25	続いて31ページから今回の特定施設の評価への反映方法について具体的な説明になります。
0:19:32	まずそれぞれの評価について述べ関連する項目を示し、最後に特定してと同様に反映方法を1枚にまとめるという流れになっておりますけども、
0:19:42	冒頭のそれぞれの評価については、一章で説明した資料がまとまったものとなっておりますので、そちらを再掲する形とさせていただきます。
0:19:52	31、31ページが標準応答スペクトルに基づく地震動の増幅出しの評価への反映方法で、32ページが2004年留萌地震の場合、
0:20:03	また334ページには増幅ありの評価についての資料を再掲しております。
0:20:10	この増加の評価での説明で登場しました敷地の地盤増幅特性については、根拠として詳細な資料をつけておりますので、そちら簡単に説明させていただきます。
0:20:22	1ページ飛んで35ページをお願いします。
0:20:29	35ページに示す通り、敷地では複数の地震観測を行っており、地震は到来方向毎の地盤特性を、増幅特性を分析しております。
0:20:40	36ページには、各号炉周辺における鉛直アレイ観測点の分析結果、
0:20:46	37ページには敷地全体を対象とした多点連続観測の分析結果を示しております。
0:20:53	再生の再掲のため詳細は省きますけども、これらの結果から、下段に示す通り、顕著な増幅は号炉周辺観測点における特定の地震は到来方向の地震のみに見られるものとなっております。
0:21:08	また38ページに示す分析結果から、上段に示す通り、底方向の地震は

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:14	増幅の程度は一様ではなく、地震入射角が鉛直に近づく、敷地近傍の地震ほど研究の増幅が見られない傾向があります。
0:21:24	この増幅要因は、局所的に分布する浅部地盤の S R S 速度が低下した検出構造であると考えられ、
0:21:32	39 ページに示すように、敷地近傍で実施した複数の速度調査結果から、深度 100 メーターから 400 メーターの浅部に、そのような構造を確認しています。
0:21:45	分布については 40 ページに示す通りで、5 号炉周辺より東側にエサで速度層が分布するものとなっております。
0:21:55	地盤増幅特性について解析検討を行うため、41 ページに示すように、イソダテ速度層を含む、敷地線敷地近傍の浅部三次元地下構造モデルを作成しました。
0:22:07	42 ページは、観測記録と、このモデルによる解析結果の比較であり、
0:22:13	解析結果は観測記録の特徴と概ね整合していることから、5 号炉周辺の増幅要因として、当該モデルが妥当であることを確認しています。
0:22:24	43 ページには、解析のスナップショットを示しますが、下から来た波が屈折し、一部で振幅が大きくなっていることがわかります。
0:22:33	そのため、44 ページの通り、現地の増幅のメカニズムは、S 波低速度層によるフォーカシング現象と分析をしております。
0:22:43	45 ページにこのモデルを用いて到来方向と入射角を変えて行った解析の結果を示しますが、
0:22:50	下段に示す通り観測記録の分析結果と同様の結果がえられております。
0:22:57	1 ページ飛びましてこういった事実を踏まえて 47 ページ 48 ページ、資料の再掲になってますが、
0:23:05	ここで説明しているように、全国共通に考慮すべき地震動の評価では増幅ありの評価を行わないこととしました。
0:23:14	49 ページには、特定せずの増幅ありの評価をやらないと説明のところで登場した、特定しての増幅ありの評価について資料をつけております。
0:23:25	特定しての評価において現地の増幅は震源断層のうち、増幅方向に当たる範囲の大地震はに増幅係数を乗じることにより、適切に反映しています。
0:23:37	49 ページの内陸地殻内地震の場合、検討地震として御前崎海脚西部の断層体による地震は、図のオレンジで示す増幅方向に、震源断層が位置する地震であり、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:48	特定せずの地震規模を上回る、M7.4の震源をし、敷地近傍で考慮し、
0:23:55	増幅方向の敷地近傍に配置したアスペリティからの地震法に、
0:23:59	増幅係数を乗じる方法により顕著な増幅を考慮した評価を行っております。
0:24:05	また50ページの敷地に及ぼす影響が大きいプレート間地震の場合についても、増幅方向の敷地近傍にSMGAを配置し、同様の評価を行っています。
0:24:18	以上を51ページに特定せずの評価への反映方法を特定せず、特定してと、同様に、1枚にまとめて示します。
0:24:31	続いて52ページから標準応答スペクトルに基づく地震動について説明をしていきます。
0:24:38	ここでは、53ページに示す標準応答スペクトルに基づき、浜岡の解放基盤表面における地震動を評価します。
0:24:47	54ページにPRA、繰り返しになるので詳細省きますけども、
0:24:54	評価方針として、1次元地下構造モデルを用いて地盤増幅特性の相違を考慮して評価を行うように記載しまして、評価のフローとイメージ図をその下に示しております。
0:25:07	ここで55ページに、加藤ほか2004による応答スペクトルについて資料をつけております。カトウ側は震源を事前に特定できない地震による水平方向の地震動の上限レベルを設定していますが、
0:25:20	黄色の箱書きに記載している通り、標準応答スペクトルの策定に当たり、全周期体において、カトウほかの応答スペクトルを上回ることが確認されていることを踏まえ、
0:25:30	特定せずの地震動としては標準応答スペクトルを考慮することとし、加藤ほかの応答スペクトルは考慮いたしません。
0:25:41	56ページからは地下構造モデルと地震地震基盤相当面の設定についてです。
0:25:48	こちら57ページですが、先ほど説明した通り、評価に用いる1次元地下構造モデルはSGFモデルとし、地震基盤相当名をVs2470メートル／sec層の上限のTP-3550メートルに設定しました。
0:26:05	58ページから解放基盤表面における地震動の評価についてです。
0:26:11	まず、59ページに示す通り、模擬地震は、姫路市、
0:26:17	千葉地震、
0:26:19	新基盤相当面における、模擬地震はは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:22	一応乱数の位相を用いた方法で策定することとし、振幅包絡線の経時変化は、下の図表に示す通り設定をしております。
0:26:31	この設定に必要なパラメータのうち、地震規模Mについては、ガイドで全国共通に考慮すべき地震動の規模はM6MW6.5 程度未満と記載されており、
0:26:41	これをMに換算した数字や、程度未満という記載を踏まえまして、特に共振分の継続時間が長めとなるよう、保守的にM7.0 とをしております。
0:26:53	また X_{eq} は敷地近傍で発生する地震を想定し、継続時間が長めとなるよう、10 キロとしております。
0:27:01	60 ページは作成した模擬地震はで、右側図表の通り、日本の電気協会 2015 に示された適合の条件を満足していることを確認しております。
0:27:14	61 ページに作成した模擬地震版に S G F モデルを用いて、敷地の解放基盤表面との地盤物性の相違を考慮して評価した地震動を示します。
0:27:28	62 ページからは、標準応答スペクトルについて模擬地震版の作成の複数の方法による検討を行っております。
0:27:35	ここではガイドを踏まえまして、実観測記録の位相を用いた方法による模擬地震はを作成評価し、前日の一応乱数の位相による模擬地震発の比較を行って、
0:27:47	位相の違いが、基盤地震基盤相当面から解放基盤表面までの伝播の特性に与える影響を検討しました。
0:27:55	用いた観測記録としては、下の図表に示す敷地で観測記録替えられている震央距離 30 キロ以内の M3.5 以上の内陸地殻内地震と考えられる地震のうち、
0:28:06	信用距離 4.4 キロで発生した M4.3 の大地震静岡県中部の地震が、
0:28:12	敷地から最も近い位置で発生し、かつ、最も大きい地震規模であることから、この地震の観測記録を用いました。
0:28:21	ここで、観測記録としては標準応答スペクトルが地震基盤相当面で策定されていることを踏まえ、
0:28:27	敷地の最深部の G L - 1500 メーターの記録を用いています。
0:28:35	63 ページ左側に、実観測記録の位相を用いた方法による模擬地震はについて、作成に用いた記録等を作成した地震基盤相当面の模擬地震は、
0:28:46	右側にその適合度の確認結果を示します。
0:28:51	また 64 ページに、解放基盤表面における地震動を示します。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:58	65 ページから、一応乱数当日観測位相の、
0:29:03	比較となっています。
0:29:04	まず、65 ページが黒が、一覧す。赤が実観測記録の位相の場合の解放基盤表面における応答スペクトルですが、
0:29:13	両者に差異は認められません。
0:29:17	66 ページは、上段が解放基盤表面、下段が人基盤相当面での加速度時刻歴は計の比較です。
0:29:27	解放基盤表面では共振分の継続時間は、一応乱数の位相の方が長くなっております。
0:29:33	また、振幅包絡形状については、両方とも地震基盤相当面と、解放基盤表面とで傾向は大きく変わりません。
0:29:44	67 ページ 2 比較結果を表形式で示します。
0:29:48	以上を踏まえまして、標準応答スペクトルに基づく地震動としては、一応乱数の位相を用いた方法による地震動を採用することとしました。
0:29:59	68 ページに、まとめとして、一応ナースによる評価結果を再掲して示します。
0:30:08	続いて 69 ページから、2004 年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動について説明していきます。
0:30:17	70 ページ概要ですが、規則の解釈の記載に基づきまして、2004 年留萌地震の際の港町観測点における観測記録から推定した基盤地震動について検討した上で、
0:30:29	敷地の解放基盤表面における地震動を評価します。
0:30:33	順に説明していきます。71 ページには標準応答スペクトルと同様に、一元化構造モデルを用いて地盤像、地盤特性の物性の遅いの影響を反映することと、
0:30:44	評価のフローをイメージ図をお示しします。
0:30:50	72 ページからまずこの地震の観測記録についてです。
0:30:55	73 ページ、詳細は割愛しますがまず地震の概要を示します。
0:31:01	74 ページから 77 ページに観測記録を示します。
0:31:06	74 ページと 75 ページに示す通り、K - N E T 港町観測点における記録が大きなものとなっております、
0:31:14	この観測点記録について検討した知見が 78 ページから示す、佐藤が 2013 の基盤地震動の推定に関する知見になりますので、
0:31:23	まずそちらを簡単に説明します。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:27	78 ページ飛んで 79 ページお願いします。
0:31:35	佐藤ほか 2013 による知見についてです。まず佐藤ほかでは、
0:31:41	港町観測点の地質構造を速度構造の把握を目的として、深津 300 メートルまでのボーリング掘削をオールコア祭祀で実施しており、いずれに示す結果がえられています。
0:31:53	80 ページです。
0:31:55	佐藤他ではこのボーリングコアを用いて P S 検査を実施してられた速度構造が左の図のようになっています。
0:32:03	G L - 50 メートルまでが、笹崎ほか 2008 の微動アレイ探査に基づく S 波速度構造とは対応していませんが、それ以深は対応しているとされておりまして、
0:32:14	この S 波速度構造に基づき、佐藤ほかでは D - 41 メートルに、基盤層を設定しています。
0:32:24	81 ページです。佐藤ほかでは、J A L マイナス 6 メートルまでの S 波速度を、先ほど登場したさ、笹タニほかを説明できるように修正し、図表に示す、港町観測点の地盤モデルを作成しています。
0:32:39	82 ページです。佐藤他では、10 - 6 メートルまでの土質地盤の 6 点において、剛性と減衰のひずみ造成を取得しており、G L - 6 メートルまでの地盤は、強震時に非線形性を生じやすい特性であるとしています。
0:32:56	83 ページに設定した非線形特性をお示しします。
0:33:02	84 ページは、佐藤ほかがここまでの検討結果を用いて、等価線形解析により、A E W 成分の事業観測記録から G L - 41 メートルの基盤地震動を推定した結果で、
0:33:14	黒がもともとの観測記録。
0:33:17	高が G L - 41 メートルの評価結果で、
0:33:20	はぎとりの結果の最大加速度は 585 ガルとなっています。
0:33:26	85 ページは U D 成分の場合で、
0:33:30	体積弾性率一定を仮定した 1 次元波動論により E L - 41 メートルの基盤地震動を評価しており、
0:33:36	最大加速度は 296 G a l となっています。
0:33:41	下段箱書きですが、このように佐藤ほか 2013 による基盤地震動評価は、用いた地盤モデルが既往の知見と整合的であるとともに、強震時の非線形性を踏まえた評価であり、観測事実と整合的であることから、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:55	24年の地震の基盤地震動として、特定せず策定する地震動に反映をしまして、行いました。
0:34:05	続いて86ページから敷地の地盤物性を考慮した赤井は基盤表面における地震動の評価についてです。
0:34:13	87ページです。
0:34:15	ここでは、今説明した佐藤他による基盤地震動の評価結果について妥当性を確認するため、二つ目の0°、①から④に示す追加検討を実施し、
0:34:26	その追加検討結果を踏まえ、敷地の地盤物性を考慮した解放基盤表面における地震動を評価しました。
0:34:34	88ページが、流れと内容を図表で示したものとなります。
0:34:41	89ページから具体的な説明になります。まずは検討①についてです。
0:34:47	検討①では安里ほか2013の報告時点以降に獲られたGL-6メートルから-41メートルまでの室内試験結果を用い、
0:34:57	GL-41メートルまでの非線形性を考慮して、水平方向の基盤地震動を評価しました。
0:35:04	90ページに設定した自然系特性を示します。
0:35:09	91ページに示す通り、この非線形性を考慮して、地表観測記録を入力として、GL-41メートルにおける基盤地震動を評価しました。
0:35:22	評価結果を、92ページに示します。
0:35:25	左下が佐藤ほか等追加検討の加速度時刻歴の比較になりますが、最大加速度は佐藤他と比べるとやや小さく評価されました。
0:35:37	93ページは応答スペクトルの比較。
0:35:39	94ページには、S波速度減衰定数最大加速度を最大ひずみについて初期モデル佐藤他との比較。
0:35:49	95ページは伝達関数の比較で、
0:35:52	96ページに検討①のまとめを示します。
0:35:57	続いて97ページからの検討②では、不確かさを考慮した評価として、表に示す通り、GL-6メートルまで非線形、非線形性、
0:36:07	GL-6メートル以深は減衰定数3%として、そういう方向の基盤地震動を評価しました。
0:36:16	98ページに評価結果示しますが、サイドカー最大加速度は佐藤他に比べてやや大きく、病棟スピルは同程度となっています。
0:36:26	99ページに伝達関数の比較を示しまして100ページに検討②のまとめを示します。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:35	101 ページからの検討③では、佐藤ほかの報告時点以降獲られた P S 検層の再測定結果から、地盤モデルを変更して、鉛直方向の基盤地震動を評価しております。
0:36:48	102 ページに、P S 検層の再測定結果を反映した地盤モデルを用い体積弾性率一定として G L - 41 メートルの鉛直成分の基盤地震動を評価した結果を示します。
0:37:02	最大加速度は佐藤他よりもやや大きく評価されました。
0:37:07	103 ページにまとめを示します。
0:37:12	104 ページです。
0:37:14	佐藤ほか及び追加検討③における鉛直成分の基盤地震動は、体積弾性率を弾性率一定として評価をしておりますが、ここでは、検討④として、
0:37:25	港町観測点における地下水の状況を踏まえ、G L - 6 メートルまでのポアソン比で 10 - 06 メートル以深は体積弾性率一定として鉛直方向の基盤地震動を評価した結果を示します。
0:37:38	結果最大加速度は、検討③に比べてやや大きく評価されました。
0:37:46	105 ページに、これまでの検討と結果を表でまとめて示します。
0:37:51	検討の結果、水平成分では、検討②鉛直成分では検討③が最大加速度が最も大きくなりましたので、
0:37:59	これを用いて敷地の地盤物性を考慮した解放基盤表面における地震動を評価していきます。
0:38:07	106 ページに評価に用いる 1 次元地下構造モデルを示します。
0:38:13	標準応答スペクトルの時と同様に、S G F モデルを用いて次へ A V S 960 メーター / s e c 層の上限である、T P - 192 メートルに、基盤相当面を設定しています。
0:38:26	107 ページに評価結果を示します。黒が入力は、青が出力はぜ。水平動は入力 600 ガルに対して出力 690 ガル。
0:38:36	鉛直動は入力 306 に対して出力 313 ガルと評価をされました。
0:38:42	この結果にさらなる保守性を考慮したものが、108 ページで、水平動、700 ガル、鉛直度を 320 g a l とした地震動を、
0:38:51	2004 年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動として採用することとしました。
0:38:58	109 ページにまとめとして評価結果を再掲して示します。
0:39:04	以上が二章の説明となります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:08	次に、6、110、110 ページから、3 章の地域性を考慮する地震動について説明していきます。
0:39:20	111 ページ、概要です。地域性を考慮する地震動につきましては、2008 年岩手宮城内陸地震と、2000 年鳥取県西部地震を検討対象とし、
0:39:30	震源周辺の特徴を整理した上で、震源域周辺等を敷地周辺の特徴を比較し、類似する場合には、観測記録の収集対象といたします。
0:39:43	まず 112 ページから、2008 年岩手宮城内陸地震について説明をしていきます。
0:39:50	初めにこの地震の概要知見を説明した上で、天羽カトウ野地地域性の比較検討を説明していきます。
0:39:58	まず 113 ページは詳細割愛しますがこの地震の概要を示します。
0:40:05	114 ページは震源域周辺の地質について示します。
0:40:10	本地域は、地質調査総合センターのシームレス地質図によりますと、第 3 系の前身等から、新第 3 系の鮮新統の火山岩類、堆積岩類や、
0:40:22	第 4 紀の火山岩類が分布しています。
0:40:26	115 ページにシームレス地質の凡例を示します。
0:40:30	116 ページは、震源域の活断層及びひずみ集中体についてです。
0:40:36	信用付近には活断層の記載はありませんが、その北方には、北上低地西縁断層体等が認められています。
0:40:45	また本籍は、地質学的ひずみ集中体、測地学的ひずみ集中体が認められ、先駆的な地震活動も見られています。
0:40:55	117 ページは変位地球についてです。
0:40:58	本地域では、地震前の車空中写真判読により、変位地形が見いだされ、また、河成段丘の変異体が認められ、
0:41:07	五藤ササキ委員 2019 や柳田他 2000 人、20 の新知見では、河成段丘の肥厚から元形態や隆起量の急変部が分布し、この地震の伏在断層による変位地形等を解釈しています。
0:41:23	118 ページは、地表地震断層についてです。
0:41:27	藤堂ほか 2010 や堤ほか 2010 は、この地震の地表地震断層を報告しており、
0:41:33	震源断層の中央部において、震源断層が断続的に地表に現れたとしています。
0:41:42	119 ページは、第 4 紀火山、カルデラカルデラとの関係についてです。
0:41:47	本地域は東北日本の脊梁から火山列の、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:51	火山フロントに位置し、また、カルデラが密集しているとされています。
0:41:57	120 ページは地すべりについてです。
0:42:00	日本地域では、大規模な地すべりが密集しており、本地震でも、荒戸澤で大規模な地すべりが発生しています。
0:42:10	121 ページ上段に、以上の新駅の特徴を整理したものを示します。
0:42:15	以降では、大局的な地体構造の観点に加え、上記の特徴を踏まえて、
0:42:20	レグザ箱書きに示す項目について浜岡の敷地周辺との地域差の比較検討を行いました。
0:42:29	まず 122 ページは、基盤地質分類地質分類の観点からの地体構造区分の比較です。
0:42:37	本検討には地体構造区分の知見として最新の終わりセクター2020 をを用いて検討を行っています。
0:42:45	震源域周辺は、南部北 upper とされ、主な構成が岩類は、
0:42:50	古生代から中生代の堆積岩を主体、変成岩や花崗岩類を伴うとされています。
0:42:57	一方、敷地周辺は西南日本の外縁に発達する構造帯から新第三期の付加体とされ、
0:43:04	タービダイト起源の砂岩泥岩が主体とされています。
0:43:10	123 ページは、地震地体構造の区分の比較です。
0:43:15	震源域周辺は東北日本弧内体に区分され、活断層の密度は中で、地震活動はこうとされており、過去に多くのM7 クラスの地震が発生しています。
0:43:26	一方、敷地周辺は西南日本西南日本弧外体に区分され、活断層の密度はごく小で、地震活動も低い地域とされており、
0:43:37	過去にM7 クラスの地震はほとんど発生しておりません。
0:43:43	124 ページからはこの地震の震源域の特徴を踏まえた比較です。
0:43:48	まず地質分類です。
0:43:50	震源域周辺は先ほど説明した通り、この第3系前震等から、新第3系鮮新統の火山岩類及び堆積岩類や第4紀の火山岩類が分布しています。
0:44:02	日本式周辺では中生代から新生代第四期前期の堆積岩が分布し、それを追うように、第4紀の段丘堆積物や完新統が分布していますが、
0:44:13	半径 30 キロ以内は 30 キロの敷地周辺には、火山岩類は分布しておりません。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:19	なお本地域ではフィリピンプレートの沈み込みにより、課題が発生しています。
0:44:25	125 ページには、補足として当社の
0:44:29	実務は、地質の凡例と敷地周辺の地質地質構造の、をし、
0:44:34	調査で、以前説明した付加体の構造に関するスライドを示します。
0:44:41	126 ページは、活断層の分布の比較です。
0:44:45	震源域周辺では先ほど説明した通り、活断層が示されておらず、北方に活断層が幾つか示されています。
0:44:53	一方敷地周辺では活断層が示されていません。
0:44:57	なお当社の猪調査では、主に海域において、プレート境界にその断層や褶曲が確認され、これらを保守的に震源断層として評価をしています。
0:45:09	127 ページは、火山フロントの位置関係等の比較です。
0:45:13	1 年周辺は火山フロントに近接し、第 4 紀火山も分布しておりまた多数のカルデラに囲まれています。
0:45:22	江藤式周辺は、火山フロントから離れており、第 4 紀火山もなく、カルデラ也没有ありません。
0:45:30	128 ページは地すべり地形の比較です。
0:45:33	震源周辺では、多くの地すべり地形が密集していますが、敷地周辺では、大規模な地すべり地形は認められません。
0:45:43	129 ページに、これまでの比較検討結果を表で整理して示します。
0:45:49	いずれの項目においても、震源域周辺と敷地周辺には類似点は認められず、下段に記載している通り、両者には地域差が認められることから、地震については、観測記録の収集対象外とします。
0:46:04	続いて 130 ページから、2000 年鳥取県西部地震について、同様に説明をしていきます。
0:46:11	まず 131 ページに、詳細を割愛しますが地震の概要を示します。
0:46:17	132 ページは震源域の活断層の分布に関する知見です。
0:46:22	岡田 2002 は、鳥取県西部地震は活断層が知られていなかった地域で発生したとし、
0:46:28	この地域の特徴として、横ずれ断層が卓越すること。
0:46:32	活断層は初期の発達段階で未成熟な状態とみなされることを挙げています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:37	なお活断層データベースでは、震源域付近には活動セグメントが二つ表示されていますが、これらは、これらは地震後に追加されたものとなっています。
0:46:48	133 ページは震源周辺の地質についてです。
0:46:53	震源周辺は、泊から第三期の 9 工場を主体としており、新第三期中枢中新世に貫入した安山岩から玄武岩質の眼力が頻繁に分布しています。
0:47:05	なお震源周辺には第 4 系は分布しておらず、堤ほかは、断層変位基準が少ない地域であることをご指摘しています。
0:47:16	134 ページは地表地震断層についてです。
0:47:20	伏島ほか 2001 は、震源急変を調査した結果、ほぼ北西南東方向にほぼ平行する複数の直線に沿って、地表地震断層が分布しており、
0:47:31	その長さは約 6 キロであったとしています。
0:47:37	135 ページは震源域のリニアメントについてです。
0:47:41	八鍬 2002 堤ほか 2000 は、震源域周辺で、震源断層の走向と一致する短いリニアメント部を判読し、
0:47:49	井上ほかは、宮リニアメントに対応する断層露頭を確認し、一部は第 4 紀層を変位させているとしています。
0:47:58	井上岡谷垣見 2010 は、これらの特徴から、本地域では、若井未成熟な断層が分布し、その一部が地表に達したと解釈をしています。
0:48:11	136 ページは、測地学的ひずみ集中体についてです。
0:48:16	ニシムラ 2017 は、測地データから、西南日本のひずみ速度分布を示し、山陰地方は活断層や火山のない場合、場所でも、いずれ速度が大きいとし、
0:48:27	微小地震が活発であり、M6 以上の大地震の多くが発生しているように見えるとしています。
0:48:36	137 ページ上段に、以上の知見から新駅の特徴を整理して示します。
0:48:42	以降では先ほど同様、下段に示す通り、花岡の敷地周辺との地域差の比較検討を行いました。
0:48:55	まず 138 ページは、基盤地質分類の観点からのを、
0:49:00	地体構造区分の比較です。
0:49:02	震源域周辺は、平尾北井とされ、西南日本の日本海側に位置し、主に古生代から中生代の花崗岩円盤から構成されています。
0:49:12	衛藤式敷地周辺は、先ほど説明した通り、第三期から新第三期の付加体とされるなどの特徴があります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:23	139 ページは、地震地体構造区分の比較です。
0:49:27	震源域周辺は、ちゅ中国山地瀬戸内海に区分され、活断層の密度は小である一方、
0:49:35	地震活動は、中、括弧構造されており、過去にM、多くのM7 クラスの地震が発生しています。
0:49:43	一方敷地周辺は、先ほど説明した通り、西南日本弧外体に区分されるなどの特徴があります。
0:49:51	140 ページは、鳥取県西部の特徴を踏まえた各項目の比較です。
0:49:57	まず地質分類ですが、震源域周辺は、先ほど説明した通りは下記から第三期の花崗岩を主体としており、新第三期中新世に貫入した安山岩から玄武岩質の、
0:50:09	眼力が頻繁に分布しています。
0:50:12	一方、敷地周辺は、先ほど説明した通り、中生代から新生代々、第四期前期の堆積岩等が分布するといった特徴があります。
0:50:23	141 ページは活断層の分布の比較です。
0:50:26	震源域周辺では、先ほど説明した通り活断層がもともと示されておらず、地震後に二つのセグメントが追加されています。
0:50:35	プロシキ周辺は、活断層は示されておりませんが、なお会議で確認されたプレート境界にその断層や褶曲を保守的に震源断層として評価しております。
0:50:48	142 ページは火山フロントとの位置関係の比較です。
0:50:53	震源周辺は、火山フロントに近接し、第4紀火山も分布しています。
0:50:58	一方、敷地周辺は、火山フロントから離れており、第4紀火山もありません。
0:51:05	143 ページは、地形の特徴として、第4系や地形面の発達状況の比較です。
0:51:12	震源域周辺では明瞭な明瞭な断層変位基準の少ない地域であるとされているように、断層変位基準としての段丘面を構成する第4系は分布していません。
0:51:23	一方敷地周辺には変位基準となる海成段丘面として、主に後期更新世の牧ノ原目笠名面、御前崎面が分布しています。
0:51:36	144 ページに、これまでの比較検討結果を表で整理して示します。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:41	いずれの項目においても、震源周辺と敷地周辺には類似類似点を認められず、下段に示している通り、両者には地域差が認められることから、この地震についても、観測記録の収集外とします。
0:51:55	以上が3章の地域性を考慮する地震の説明になります。
0:52:00	1ページ飛んで、146ページから、4章の震源を特定せず策定する地震動の策定です。
0:52:08	147ページ、まとめとして一章の検討概要を再掲して示します。
0:52:12	冒頭説明した通り、特定施設の地震動としては、標準応答スペクトルに基づく地震動と、2004年留萌地震の基盤地震動に基づく地震動を浜岡では考慮することとし、
0:52:24	地域性を考慮する地震動については、観測記録の収集対象外といたします。
0:52:32	148ページに、考慮する二つの地震動を示します。
0:52:38	149ページから、審査でご説明しない予定ですが、2021年12月の補正申請における標準応答スペクトルに基づく地震動に関する参考資料をつけています。
0:52:50	1ページ飛びまして全3前半は変更点についての資料です151ページは補正申請と今回の評価結果の比較の再掲となります。
0:53:00	152ページには、 $S_s - F$ モデル、最適化モデルの設定方法と、断層モデル法による評価、標準応答スペクトルに基づく、
0:53:08	地震動の評価の違いについて説明資料をつけております。
0:53:14	コメントを審査を踏まえて最適化モデルからSGFモデルに変更する旨も記載をしております。
0:53:22	153ページは、模擬地震は揭示と揭示変化の設定についてで、黒で示すM6.9での設定から元システムの0の設定に変更する旨、記載をしております。
0:53:36	154ページ以降は本編と同様に、同様の構成で、補正申請における標準応答スペクトルに基づく地震動の説明をしております。
0:53:45	154ページが概要、155ページが、評価に用いる地下構造モデル等地震基盤相当面の設定。
0:53:54	116ページが模擬地震はの作成。
0:53:57	117ページがその作成結果。
0:54:00	158ページが解放基盤表面における地震動です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:06	159 ページ以降にはここで評価に用いた最適化モデルの設定の根拠として、特定しての、おまとめの資料でお示した資料を、を抜粋して再掲をしております。
0:54:18	すいません長くなりましたが説明は以上になります。
0:54:25	はい、説明ありがとうございます。
0:54:29	補足説明書はとりあえず、過去の
0:54:32	会合で説明した中から、
0:54:35	何か菅珪藻で質問が飛んだときに使えそうなものがあればってことで置いてあるんで、これはとりあえず置いときますね。
0:54:46	ですねえ。
0:54:48	基本的に、全国共通地域性のところの、4 ページとかですね大枠の、
0:54:54	話は議としてこれ、5 ページ 6 ページでいきなり、
0:55:00	敷地の、なんていうかその特異な増幅特性の話がいきなりぽんと入ってきてるんですけど、これなんか同じような説明後で何回も、
0:55:09	出てくるんですけど、一応まずはその特異な増幅の話、特にクローズアップしてご説明したいっていうそういう論理構成なんでしたっけ。
0:55:29	中部電力の石川です。
0:55:32	まず、
0:55:33	通常の新規地震観測記録の分析等々をしておりますけども、我々、トップ 5 号炉で特異な方向で顕著な増幅が見られるという特異なサイトですので、やはりそのことを、
0:55:45	評価にどうふうというふう to 考慮するかというところがポイントになるかと思しますので、そこを一応を強調する形で資料をつけております。
0:55:56	わかりましたちょっとつけるということであればそれを、
0:56:00	妨げるものじゃないんですけど、結局後で考慮しないっていう説明になるんですよ。
0:56:06	ヤマシタで、56 は後でも同じような説明出てくるんで、
0:56:11	それはさておいてですね。
0:56:14	7 ページからが基本的な方針が、
0:56:19	書かれていて、ちょっとわからなかったのは、いろんなところに保守的にとか、保守性を考慮してさらなる保守性をとか、いっぱい出てくるんですけど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:30	またこれそれぞれ後段で説明があったような気もするしそうでないような気もするしなんですけど、これそれぞれって後で、こうだから保守性ここにこういう保守性を積んでるっていうのは、
0:56:42	一通り説明があったんですかね。
0:56:49	例えばで言うと7ページで、
0:56:53	まずSGFモデルのところが保守的な1次元、
0:56:57	地下構造モデル。
0:56:59	あと、
0:57:00	保守的にM7.0の保守的は何か後ろの方で、
0:57:05	説明があったように思うんですけど。
0:57:11	これ一通り一応説明を所で出てきてるんですかね。
0:57:17	中部電力の石川です。
0:57:19	すいません地下構造モデルの保守性につきましては、
0:57:23	土地を特定しての審査の中で説明をしているつもりで、
0:57:28	今回補足説明資料をつけておりますけども、そちらの目次で、1ページの目次でいうと、2の方、
0:57:37	2、統計的グリーン関数法に用いる1次元地下構造の設定という資料を再掲しております、
0:57:43	その中で、通常の観測記録に基づく地盤モデルよりは地震動評価結果なりが保守的になるというところを説明しているので、
0:57:54	一応すいません(2)は説明したということで、保守的という言葉だけを使わせていただいております。
0:58:00	M7.0の保守的ということにつきましては今回初めてになりますので、当資料の本編の中で継続性を経設定するとき、その根拠を少し明確に程度という言葉であったりとか、
0:58:14	換算した時の数字であったりとかそういったことを踏まえて保守的にやりますよと。
0:58:18	そういったことを記載をさせていただいております。
0:58:23	あと留萌の地震動については最後の最後というところも各社共通なのかもしれませんが、最後、下の地盤増幅特性を踏まえて評価したやつにさらに評価するというところを、
0:58:36	2-3の最後のところで記載をさせていただいております。
0:58:42	はい、わかりました。最後の留萌のものはあれですね端数を切り上げているというか、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:49	最後エリアで数字を切り上げている部分ですよ。
0:58:53	すいません同じ 8 ページ下から 2 個目の丸。
0:58:59	確かにこの S G F モデルの
0:59:02	話は特定してと同じモデル使ってるのそのとき、
0:59:07	そこで説明しますしてますということになるんですけど、
0:59:10	ちょっと教えて欲しいんですけど。
0:59:12	これでも、留萌って港町観測点の基盤相当面から解放基盤表面までしか使わないんですよ。
0:59:20	その範囲内。
0:59:24	トータルでの地下構造モデルの保守性は中瀬、当然、特定して聞いている気がするんですけど。
0:59:30	今回この留萌のところってかなり限られた上のところだけ使ってるんですけど、ここの、
0:59:37	保守的な、ここに保守的になっていう説明をしてるつもりではないわけですね。
0:59:43	もともと下から上まで保守的な、
0:59:47	D s D F モデルがあって、その上の部分を使ってるんです。
0:59:53	というだけの説明ですかねそれとも、そのもともと保守的なモデルの上を使ってるんで、切り出した部分も保守的です。
1:00:01	という説明をしてるわけではない。
1:00:03	ちょっとそこら辺は意味合いだけなんですけど、
1:00:09	はい中部電力の岩瀬です。ご指摘の点は、ちょっとわかりましたちょっと不明確で申し訳なかったんですけども、もともと保守的なと記載させていただいているのは今比嘉が説明した通り、
1:00:23	もともとこの統計的グリーン関数法用に設定したモデルそのものが、
1:00:29	最適化モデルとか、もう提案観測記録と比較して、全体として保守的になっているという評価をもって保守的と書いているのは、今現時点ではそうですが、
1:00:40	内容についてもう少し補足をいたしますと、
1:00:42	この、この一番右にある減衰が $100 f^{0.7}$ ということで、これ実際は地震基盤面地震基盤とか伝播経路の減衰を全部に当てはめるという中央防災会議の知見を使ってる関係上、
1:00:58	アンゼンガワニエリアでやってるんですけども、それを使ってまして、これ深いところの減衰を浅いところまで使ってますので、実際には

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	浅いところに行けば行くほど保守的なモデルになっていると我々は考えているんですけども、
1:01:13	ちょっと定量的にお示しするか、何らかこう記載が同じと誤解されないようにするかとか、そういった点についてはちょっと、資料の最適正化については検討させていただきたいと思います。以上です。
1:01:28	なるほど。はい。だろうなというところで。わかりました。一応この
1:01:33	全部切り出した部分も当然ながら保守的だという、そういうご説明ですね。はい。
1:01:39	わかりました。
1:01:42	そのあとが一全体の方針として顕著の増幅効率地震動評価これは特定せずのところではありませんということで、
1:01:54	その方向別の話だとか概説書いてあるんですけど、
1:02:00	それでは、ちょっとその特定しての時2、いわゆる地震動評価って基準地震動の選定に持っていったものと、何かネットために、
1:02:11	影響評価したものとかとの比較で、これそれぞれD1を選べ、考慮する考慮しないっていう判定は、ここ矛盾してないんですかね、一応、
1:02:23	一応考慮すべきかどうかっていうのはそれは議論なんでさておいとい
1:02:28	て、
1:02:28	いくつか書いてあるんですけど、結局、方向、
1:02:32	法、特定の
1:02:34	方向だから、ちょっと何をもって最後この考慮し、いろいろとこう検討はしてるんですけど、最後何で、
1:02:41	県、特定せずの時には考慮しなくていいっていう理由が、逆にちょっとぼけて聞こえてしまったんですけど、最後は方向なんですかこれ。
1:02:58	自分力の意味です。
1:03:01	5号炉の観測点でも特定の到来方向の地震を増幅するというのは事実でありまして、
1:03:09	なんで地震動評価にはそれは原則反映しますと、いうところなんですけども、
1:03:14	その敷地近傍を見ますと、増幅化していません。
1:03:18	特定せずは敷地信号で評価をしますというところが、評価するので、近傍で観測記録増幅が見られないので、そういった特定の評価では、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:28	反映する必要がありませんとか、いうふうに考えているのは、1. ですみません、ちょっと順番前後しますが10ページの二つ目のポチになります。
1:03:35	そもそも評価方法として、
1:03:37	特定指定については震源断層を設定して、
1:03:42	この増幅特性というのは、今どれぐらいその増加方向に震源が入っているかということで増幅の程度が変わってきますので、
1:03:49	そのメッシュをを切って震源断層を設定する特性資料はちゃんと反映できるんですけど、そういったことで評価を行わない手法として評価ができない特定施設については、
1:03:59	そもそも評価ができませんというのが、
1:04:02	10ページの二つ目のポチで、その二つを今理由として記載させていただいております。
1:04:12	すいません敷地近傍でやってるのは敷地近傍の震源であって、この地震ではってことですね。はい。その2点で、
1:04:22	特定製造のときにはこうしないと、ちょっとそこはお考えはお考えなので、
1:04:29	阿藤。
1:04:31	11中にはこれ後でも出てくるんですけど、
1:04:35	一応その岩手宮城にはあって敷地周辺にはないもの。
1:04:39	鳥取県西部があって敷地周辺にはないものっていうことで、
1:04:43	比較はしてあるんですけど、
1:04:47	もともとこれって地震が発生する前には、この断層、
1:04:54	岩手宮城とかですね、鳥取県西部とか、
1:04:57	事前には見つからない見つかりにくい。
1:05:01	かどうかというところで、
1:05:04	ちょっと比較はいろいろしてるんですけど、
1:05:07	太字下線で引いてあるところでいうと例えば
1:05:12	12ページの
1:05:14	鳥取県西部のところと言うと、
1:05:17	左側
1:05:18	地体構造区分でいうと、
1:05:20	密度小で右側密度ごく小で、このきわみがつくかつかないかなんですかね、ちょっと。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:27	例えば報告複数報告されているか。
1:05:30	報告はないかってことでこれ、敷地周辺で報告があったり、密度が酷暑と言えなければこれは考慮するのかとか、
1:05:38	ちょっとそこら辺がわかりたいんですがもう1回説明いただいていいですか。
1:05:45	何かその事前に発見できないものと理由との、
1:05:49	を比較したものを今回ここで比較しているものともうちょっと、その因果関係があんまりよくわからなかったんですけど。
1:05:57	はい。中部電力の久松です。ここ文字にするとですね、同じような言葉が出てきて、程度問題のように読めますが、地帯構造としてまずまとめられている文献ですので、
1:06:11	特に上1、上二つですね、一つ目は、
1:06:17	基盤、地質の分類ということで、
1:06:20	その地域の成り立ち、そもそもの成り立ちが、
1:06:25	異なっていると。
1:06:27	ということで文字にするとまあ、あの時代とかも似たようなものとなってますが成り立ちがそもそも
1:06:35	敷地の方では、付加体っていうので特徴づけられている。
1:06:40	鳥取県西部の方では花崗岩だとか、塩マンガンということで、前回とはまた異なる地層となっているということ。
1:06:49	あと地帯構造の方、二つ目の地震地帯構造の方では、
1:06:55	西日本の大体代替でそもそも異なっている。
1:06:59	あとは、東北の方では、
1:07:01	東北日本が痛いということで、またそれも地帯構造として、大人ことと異なる場所にありますので、そういうところでまず、
1:07:12	全く特徴が異なっているということで、
1:07:16	頭の方に整理しております。以上です。
1:07:24	いや123五つあるんですけど結局どれではねてるのかが見えなかったんですよね。いや飛田と。
1:07:33	は、幅が違いますとかですね。
1:07:36	うん。それ当然場所が違って地帯構造が違うのはそうなんですけど、
1:07:41	だから考慮しなくていいって言われるともともと東北と中国地方の3、3印可
1:07:47	山陰だけに限られた話です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:50	て言う、ほとんどのサイトは何も考えなくてよくなるんですけど、
1:07:54	そういうことではないと思っていて、ちょっとここ何で最後、前提条件として、場所が違いますって話はもちろんそうなんですけど、最後何でこれ、
1:08:04	我社の方はいや、この浜岡の敷地周辺を同じように事前に、
1:08:09	見つからないということはありませんっていうのは、何も持っていつてるのかが、
1:08:15	ここを見ても、最後の説明を見ても、見えてこなくて、いろんな比較をされてるのはもちろん結構で、それは努力されてるのはわかるんですけど、
1:08:24	ちょっとそこがわからなかったんですね。もちろん、
1:08:27	いやいや浜岡のところでこれらを考慮すべきだと思って聞いているわけではないんですけど、
1:08:32	ちょっと結論を抜けて、
1:08:34	最後なんで、
1:08:37	我社のサイトの周辺は違いますっていうのは、そこがちょっとわからなかったんですよ。
1:08:44	はい。中部電力の久松です。
1:08:47	先行サイト間の地域性ということで、この地域で地震が、この地域といえますか
1:08:55	多く地方なり、鳥取県西部の周辺で、地震を見つけやすいか見つけにくいとかという。見つけられるかどうかという問題よりもまず、
1:09:05	その地域の地域性が、一緒かどうかというところで、
1:09:09	考慮すべきかどうかということで、判断されてたと思うんですけど。
1:09:14	そういう意味では、浜岡の特徴としてまず一番の特徴は、課題であるというところで、
1:09:23	特徴づけられますので、
1:09:25	そもそも、
1:09:27	この中で一番の違いということでは、一番上の付加体にあるというところと、
1:09:34	その他のところということで、一番の違いということではそういうところで判断できるかと思っております。
1:09:46	中部電力の岩瀬です。
1:09:48	ちょっと

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:50	多分表で書いてしまうと、この表で書いてある記載だけの企画になってしまっていて、基本的にはこの表を見ながら総合的な評価をしているということだと思うんですけど、多分どう総合的な評価をしているのかっていうのを具体的にこの表だけでは、
1:10:06	伝わらないよということだと思いますので、ちょっと今いただいたご意見も踏まえて、我々が基本的には地体構造で全然、
1:10:16	違う。
1:10:18	いうところその違うことの結果がこの地震活動だとか、活断層の分布とかに現れてるんだという分析をした上で違うと言ってるんですけどもそのことがちゃんと伝わるように、もう少しがん、
1:10:30	どう評価をしたかを、記載をふやすようにしたいと思います。よろしくお願いします。
1:10:35	規制庁のニシキですけども、この部分のところで、多分なぜ岩手宮城は見つかりにくかったのかとか鳥取西部だと見つかりにくいのかっていうところが、まず当然あって、
1:10:49	それで敷地周辺道路比べこうするってことだと思うので、その部分なんでそういう、見つけにくい地域性があるようなものっていうことで整理しなきゃいけないかっていうところの、なんだ、その大目的みたいのがいまいちこのテーブル、見えないので、多分今の話になると思うので、
1:11:06	そこをちゃんと多分整理された上でやれば、見やすくなるのかなと検討されてる中も、反映できていくのかなと思いますのでその辺りはよろしくお願いします。
1:11:22	はい。中部電力の久松です。
1:11:24	いや、
1:11:25	承知しましたん時、見つけにくいという観点も踏まえて、整理するようにさせていただきます。
1:11:41	はい。よろしくお願いします例えば今まとめられている基本的な特徴基本的な情報の整理っていうところは、それはそれで結構だと思いますので、
1:11:49	そこからどうやって見つけにくい見つけやすいっていうところに持っていくかというところの工夫をお願いします。
1:11:56	あとは、全体概要でいうところはもう方針を変更しているので、あまりちくちくとは議論してもしょうがない部分なんですけど、
1:12:09	15 ページのところ、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:13	さっきもここ一応最適化モデル取り下げた方のモデルですけど、それと S G F モデルと話があって、
1:12:22	S G F モデル、最適化モデル保守的な、
1:12:27	何最適化もあまり設計のところでは最適化をしてしまうっていうところはもうそもそもあるのでこれも取り下げてるんで結構なんですけど、
1:12:36	これも S G F モデルが最適化モデルで保守的なんで S G F モデルがいいんですと言ってるわけではないと思うので、
1:12:45	ここであんまりその最適化モデル保守的かどうか。
1:12:50	何か説明上要りますかねと思ったわけなんですけどもともと F F モデルは最適化モデルとか全く関係なく、
1:12:57	そもそもご指摘なんですよね。
1:13:00	それとも S G F モデルのその保守性を説明するのに、相手方として最適化モデルって説明上要るんでしたっけ。
1:13:13	中部電力のイワセです 15 ページ等のところの記載ですか。
1:13:19	麻生ですいません 15 ページです。
1:13:22	ここはこれ、変更点についてってことで書いてるんで、そこに括弧書きで最適化モデル保守的なモデルっていう何か解説がついてるんですけど、
1:13:34	我々としてこれを記載した意図としては、S G F モデル、要は、今まで審査済みのモデルを使いますよというのは、わかるように記載したつもりなんですけれども、
1:13:45	その今までの S G F モデルというものが、補正申請で出させたモデルよりも安全側のモデルになってるかどうか、
1:13:53	もう伝えておかないとわからないかなという配慮で書いたつもりだったんですけども、ちょっと違う誤解を与えてしまってるってことでしょうか。
1:14:03	そうですね。多分そこは誤解、誤解というか別に、
1:14:09	何か悪意を持って読んだつもりはないんですけど。
1:14:13	やっぱ単純にもう S D F モデルにしますっていう以上でよくてあまりここで何か最適化モデルが、
1:14:22	非保守的なモデルでしたとかそういう話をしてもはやしようがないかなと思ってるので、
1:14:27	なくてもいいんじゃないかっていう趣旨なんですけど。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:31	なくても一部電力の額は、括弧書きがなくても承知しました。はい。ちょっと中途半端に書いたせいで何で書いてあるのかがわからないので、シンプルに何をしたかを記載した方がいいということだと思いますので、
1:14:45	ここについては削除をして、わかりやすい形にさせていただきたいと思います。以上です。
1:14:53	はい。すいませんただそれだけです。よろしくお願いします。
1:14:57	留萌の方は、確かに加藤スペクトルの話とかなので、
1:15:03	これはこれで特に方針としては良いということですかねはい。
1:15:10	以降はちょっと
1:15:13	もう1回、
1:15:15	今日ご説明あったんで、ちょっとその到来方向なり
1:15:20	いわゆる特異増幅の話ですね。
1:15:23	お話はちょっと同じような説明が繰り返されているのでもう一度、読んでみて、
1:15:30	ちょっと今回、全体として分厚いので、概要1 海域概要とか一通り説明をお聞きして気になる点をお伝えしつつ、
1:15:41	一つ2回目のヒアリングで、修正してない部分ですね1回目から2回目で修正してない部分でお聞きすることがあるかもしれません。ちょっとボリュームとして全体が厚いので、
1:15:52	何かちょっと1回だけで、
1:15:55	読み切って趣旨を読み取って、コメントを出しきれなかったところがあるので、ちょっと今概要全体の
1:16:02	大きなところで気になった点を申し上げました。
1:16:06	今ちょっとものすごく気になってるである方います。
1:16:20	規制庁タニです。
1:16:22	さっき鈴木さんも確認したんで、10ページの、
1:16:31	増幅を考慮しない理由っていうのをもう1回ちょっと確認させて欲しいんですけど。
1:16:37	一つ目のポツっていうのはさっき説明して、数によると、こういった方法がないんだっていうように聞こえたんですけど。
1:16:46	その手法がこう、増幅を、
1:16:51	反映した評価が行えないっていうことを一つ目のポツで言っているっていうことでいいんですか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:07	中部電力の岩瀬です。
1:17:11	方法がないというよりはいいか、言い方だけかもしれませんが、範囲を考慮して遠くの範囲を考慮して、やるためには、震源断層を設定するのが必要なので、
1:17:25	それに沿う即した評価の考え方としては特定せずというのはちょっと合っていないんじゃないかなということを書かさせていただいているということです。
1:17:34	以上です。
1:17:38	規制庁タニすると多分その辺は何か誤解のないように変えた方がいいのかなと思うんですけども。
1:17:45	増幅方向に当たる範囲が反映し、できないっていうのが理由ですか。そういう、
1:17:55	これなんか例えば工学的なジャッジで孔口加工考えてこうやるとか。
1:18:00	いや、やろうとしたら何か、
1:18:03	方法ありそうな気もするんですけど、これは、
1:18:08	断層モデルでやるように、増幅方向の範囲をやっぱり特定しないと評価はできないっていうのが、中部電力の考えてことですね。
1:18:21	中部電力の岩瀬です。もう少し、
1:18:26	甲斐解説が説明をいたしますと、補方法としては、すごくこの現象が到来方向で限定されて震源断層との位置関係を考えるということをやっと脇に置いて、
1:18:40	この一番安全側にやるということであれば、全部にかけると、全部が増幅すると考えるというところまで、やるという方法が一つとしては考えられるんですけども。
1:18:51	それは我々としては、この観測記録の分析結果とか地下構造調査結果には合わないと思っていますので、それは我々としては、そういうことはやらないという方針とセットで、
1:19:04	このように増加範囲を、震源を特定せずと特定しない震源断層を置かない評価では、やれないんじゃないかと、いうことを我々として説明しているということです。
1:19:16	ちょっとその辺がまだ、この記載ではわかりにくっていうことでしょうか。
1:19:23	だから、これ僕二つポツがあって、何か二つ目、二つ目の方を二つ目の方は、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:30	何か、
1:19:31	へやらないでいい、いい理由みたいな感じで書いてて一つ目はできない みたいなふうになんかちょっと読んでしまったんですけども、だから、
1:19:42	できないっていう部分が消えたときにはやるんですかとかそういうちょ っと、この二つの関係をちょっと頭で考えてしまったんですけど、一つ 目のポツの中に、
1:19:53	そういった、今説明されたようなことも含んでいるのであれば、
1:19:58	うん。
1:19:58	なんかその辺が表現。
1:20:01	してからの議論なのかなというふうに感じました。
1:20:11	中部電力の岩瀬です。ご指摘ありがとうございます少しご指摘も踏まえ て、今お聞きしたコメントからすると、多分このポチが二つ書いてある ことで、並列で
1:20:23	しているようだけど、ちょっと違う趣旨。
1:20:26	使ってることも踏まえてここをどう書くか、説明が足りないところも含 めて少し再度検討させていただきたいと思います。ありがとうございます ました。
1:20:51	他、規制庁のタジマさんがそうであります。ちょっと関連して、
1:20:57	一つ教えて欲しいんですけども、聞こえてありますでしょうか。は い。聞こえておりマースタジマさんどうぞ。
1:21:07	いや、
1:21:08	はい、えっと、集めのポツの、
1:21:13	基本、
1:21:14	心周辺以外はロックが認められないっていう記載と。
1:21:21	あとは増幅方向であっても、地震一波の入射角が鉛直に近づく敷地近傍 の地震ほど顕著な増幅は見られない傾向があるっていうところが、
1:21:34	一応二つポツ目で強調されてるんですけども、
1:21:38	これを読むと、
1:21:39	何か、5号炉周辺は、
1:21:42	顕著な増ではないけど、やはり近傍でも増幅があるというふうに、
1:21:50	も、これは貸借として読めるんですけども、事実としてそういう、
1:21:56	理解でよろしいでしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:05	中部電力の岩瀬です。顕著な増幅というものがどこから顕著というかにもよるんですけども、我々乾燥記録の分析をしている限りにおいてはどうしても、
1:22:17	はぎとりの問題とかいろいろあって、増幅があるなしということをちょっと、こういうところを明確に線引きするのはなかなか、
1:22:28	難しいところもあるんですけども、増幅特性の一定のばらつきがあることを踏まえれば、この震源近傍については、増幅はしないと扱っていいというふうに我々としては考えているということでございます。以上です。
1:22:48	議長の田嶋です。
1:22:50	はい。配車というか、お考えは
1:22:54	わかりました。
1:22:56	その上で、この市敷地近傍というのは、距離とかでいうと、どういう、
1:23:03	距離とかであらわせるようなものでしょうか。ちょっと今割と定性的な表現が続いていて、どれくらいのΦいて、どう考えればいいのかっていう
1:23:14	分布してるっていう層とか下の、何ですかね。
1:23:19	図とかで、割と何、何メートルとか書いてあるんですけど、この日と真下とかにもあったりして、
1:23:26	これがどれくらいの範囲、この黒の何か矢印、破線の敷地近傍の地震動とかともこの経路はやっぱり重なった図になっていたりして、
1:23:37	ここの図と下から見ると、どのくらいの距離はいよ今ここで言う近傍と言ってるのかとかその辺りもう少し定量的に説明がないと、なかなかちょっと、
1:23:51	なんていうんです感覚が掴めないというところがあるんですけどもその辺りって、
1:23:56	大体敷地近傍ってのはどれくらいとかこの、
1:24:00	敷地近傍とこの図としてはこの黒線と黄色の分布範囲っていうのが重なってるので影響をやはり少しわずかながらも受けるというようにも、
1:24:12	素直に見るとちょっとよく見えてしましまして、その辺りもう少しこうなんですかね具体的な数値等、
1:24:18	含めて表現することは可能なものでしょうか。
1:24:26	はい。中部電力の岩瀬です。ご指摘ありがとうございます。
1:24:32	近傍についてどれくらいの距離と考えてるのか定量的に、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:39	何か説明すべきという点については検討させていただきます。概ねでございませけれども、基本的には、震源特定せずとしては、よくされているように、半々形。
1:24:52	半径 10 キロ程度っていうのが、一つの目安かなと考えて検討してございますので、そういうことも含めて少し説明については、お示しできるようにしたいと思います以上です。
1:25:06	長タジマです。はい、ありがとうございます。よろしく申し上げます。
1:25:21	はい。
1:25:22	他、今特にその増幅のところ何かありますか確認していくことである。
1:25:31	ちょっと増幅を考慮しない理由とかそもそもの御社のお考えみたいなものはもうちょっと明確になるような、
1:25:40	形で資料化をお願いしますその上で、
1:25:44	議論というか審議になるかなと思いますんで、
1:25:49	て、
1:26:14	ちょっと、
1:26:20	へえ。
1:26:22	あれすいませんどこだったの、ページを、増幅と全く違うけど、ページを忘れてしまった複数地方の観測井像を用いた手法の観測記録。
1:26:34	宇井地震はってどうだったかな。ページは後ろだったかすみませんちょっとパッと今出てこなくなっちゃったんだけど、
1:26:40	62 ページ。
1:26:42	62 ページ辺りかと思います。
1:26:44	すいませんこれですねはい。
1:26:46	これちょっと、
1:26:50	一応観測、販促期間ってもう古いものも、もはやしょうがないんで、一応 2000、直近の 12 月までで、202211 の 12 月で、
1:27:01	ある程度の距離と規模等で、
1:27:04	選ぶ島弧そもそも拾えるのがこの三つだけ 200720152015 っていう常温、そもそも母数として拾えてるのがこの三つだけっていうことですかね。
1:27:19	中部電力の石川です。はい。その通りです。
1:27:22	はい。その上で最後どれを使うかというのは、
1:27:28	マグニチュードが 4.33, 64.3。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:34	で、4.3 は二つあります。で、距離が 24.7 と 4.4 キロなんで、近いほうの 4.4。
1:27:43	一応このマグニチュードと距離のみで決めてるっていうことでいいんですかね、一応資料だとそう読み取ったんですけど。
1:27:57	中部電力の岩瀬です。基本的には、選定の考え方としては、そのマグニチュードと距離を考えると、明らかに 2015 年の 9 月 1 日が大きいので、これを選んだということなんですけれども実際
1:28:13	最大加速度も、この地震がこの三つの中で明らかに一番大きい地震ですので、そのあたりを確認した上で、選んではいます。
1:28:22	もしきちんとそういうのをやられているのであれば、その最大加速度だったりその 8K とか継続時間だったり、
1:28:29	そういうところをもちろん確認した上で、これが一番適当なんですっていう。
1:28:34	これを選ぶことの合理性っていうんですかね。そこら辺はやってるんだったらちゃんと書いた方がよろしいかなと思います。定性的には、
1:28:41	さすがに、選べ三つの中で距離と、1 度考えればこれを選ぶんでしょってのはわかるんですけど。
1:28:50	きちんとその加速度とか、
1:28:52	継続時間とかそういうところも当然見て、
1:28:55	決めてるんですよというのは、
1:28:57	1 枚ぐらい加えるか何かしてでもご説明しといた方が、
1:29:02	確かにねどうとこれはどう見てもこれを選ぶんだよねっていうのははっきりするので、
1:29:07	こうやられた方がいいんじゃないか、資料にきちんと書いたほうが説明性が向上するんじゃないかなと思いました。
1:29:14	中部電力の岩瀬です。
1:29:17	ちょっとマグニチュードだとわかりにくいんですけども多分最大加速度が一番わかりやすくてですね、明らかにこれが大きいもんですから、多分災害加速度をしっかりと記載すると、わかりやすくなると思いますので、まずその
1:29:29	ようにしたいと思います確か先行サイトでも最大加速度書いてたところも、あれなので、そういうところもちゃんと見られて、書いた方がいいですよという、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:41	63 ページに使った記録の最大加速度とかわかるような形では形を載せておるんですけども、使わなかった他の地震の最大加速度がどれぐらいのものがわかるようにしとくと多分、選んだ理由がわかりやすいと思いますので、
1:29:55	その辺は対応させて、資料化をしたいと思います以上です。はいよろしく申し上げますすでにこの辺の審査が終わっている先行サイトってありますんで。はい。ちょっとそこら辺も参考にしてみてください。
1:30:14	すいません。今日全体をなめてなので一応ざっと私から気になった点は以上です。
1:30:36	はい、規制庁佐口ですけど、ちょっと私も、全体通して、
1:30:40	ちょっとあれとか思ったり、
1:30:42	すごく素朴な疑問とかも含めてですね、それから細かいことも含めて確認させていただきたいんですけど。
1:30:50	まず 4 ページですねこれ最初のところの概要なんですけど、
1:30:54	えっとした。
1:30:56	の、
1:30:58	箱書きの、
1:31:00	一番最初の丸なんですけど、
1:31:03	この敷地の解放基盤面との地盤物性の相違による影響を考慮したっていう、この文言って、いや昔のガイドとかだったらひょっとしたらそうかもしれないんですけど、
1:31:16	今って、
1:31:17	違うんじゃないかなと思って少なくとも地盤物性に応じたとかそういう記載はあるとは思うんですけど。
1:31:25	何かそれよりもむしろ解放基盤までの、
1:31:28	伝播特性とか、そういう話じゃないかなと思うんですけど、何か。
1:31:35	その辺りって、
1:31:37	どうなん、どこからこういう文言をひょっとすると先行サイトで、昔のそういう考え方が残っててそういう書き方をされているところもあるかもしれないんですけど、
1:31:48	この地盤物性の相違による影響って、何かどっかから引っ張ってきたとかってあります。
1:31:59	中部電力の岩瀬です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:02	今のご指摘を受けると若干不安になってくるんですけども、もともとはその基準とかガイドの記載も踏まえながら、書いた。
1:32:12	つもりだったんですけども、ちょっと最終的な最新のものとの関係の、
1:32:19	確認が、
1:32:21	足らなかった。
1:32:22	たかかもしれないので、少しここいずれにしろ多分何でしたっけ解放基盤までの伝播特性を考慮するのが一番の趣旨だということがわかるようにした方がいいということだと思いますので、
1:32:36	ちょっと検討してより表現が適正化するようにしたいと思います。以上です。
1:32:42	はい。サグチですわかりました確認できました。で、10 ページですねさっきからいろいろ確認をしてますけど、やっぱりこれ私も10 ページの二つのポツの上はあくまでも、
1:32:56	要は評価が、
1:32:57	今できるような手法がないんですっていうふうにしにしか読めなくて、一方で二つ目は、考慮する必要がないんだよと言っているっていうことで、何かちょっと最初は、
1:33:11	いや評価ができないからやらないでいいんですっていうのはちょっとおかしいなっていうロジック的にですね、と思ったっていうのと、
1:33:20	それから、今多分これ下のポツの御説明っていうのは、基本は、
1:33:27	標準応答スペクトルに基づく地震っていうのは、
1:33:31	もう鉛直下方からしか来ないという前提で考えれば、敷地の中は、
1:33:38	増幅っていうのはある程度の、
1:33:41	角度ですよ入射角を持ってある特定の方向から来るものしか増幅しないから、
1:33:47	考慮をしなくてもいいんですと、そういうご説明をされたいのかなと思ったんですけどまずそういうことでよろしいです。
1:34:05	中部電力の岩瀬です。この図を作った10 ページの図を作った理由としては、観測記録の分析結果として近傍が、
1:34:16	増幅していないと、いうことを確認していましたので、それについてどうということかという、低速度層との関係を解説するというので、
1:34:27	斜めの斜めというか結局低速度層のこの傾きと同じような雰囲気が入ってくると、フォーカシングがより顕著になって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:37	それとずれてくると、フォーカシングしにくくなるという分析をしていますので、そのことを表現したというものでして、現象面の説明としては、
1:34:49	佐口さんがおっしゃられた通りですけれども、乾燥記録との分析結果とのセットで説明しているというふうに考えております。以上です。
1:35:01	はい。いずれにしても、今の文章をこのまま読むと、
1:35:06	とにかく入射角が延長、鉛直。
1:35:10	に近づくっていうものは、記録でも、
1:35:14	顕著な増幅っていう傾向がないっていうのをちゃんと確認した上で、だから今回は特定してとは違って考えなくてもいいんですって。
1:35:24	そういうふうを読めたことは読めたんですけど、その一方で、特定してって、
1:35:31	ある意味方向で、入射角の違いなんかはあるんだけれども、もう敷地の真下から、ある意味方向を決め打ちでこの方向については、
1:35:41	入射角によらず、もう、
1:35:44	それは保守、御社は保守的に行って、使われてますけど、
1:35:49	考慮しますと、
1:35:51	いう話だったと思うんですけど、それと、この関係なんで特定しては保守的に、
1:35:59	考慮するのに、特定せずは保守的に考慮しなくてもいいのか。
1:36:05	ていうのと、先ほど田嶋さんとかもいろいろ確認してましたけれども、じゃあその、
1:36:11	敷地近傍とか、
1:36:13	この標準応答スペクトル。
1:36:16	ていうものの地震動の、
1:36:18	起こる場所ですね。
1:36:20	これって本当に下の鉛直の90度でしか考えなくていいのかとか、そういう御説明ってどっかにあるんですけど。
1:36:41	中部電力の岩瀬です鉛直の時、鉛直入射の地震動、鉛直入射を考えればいいんだとかそういった説明はありませんし、
1:36:52	特定しての方で、敷地の真下も含めて保守的に我々としては、幅広にと

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:03	震源を特定して策定する地震動の増幅の評価にあたって保守的を考慮する上で幅広くという中で、下も考慮しているというところとの関係については、
1:37:13	記載が確かにございませんので、その辺については当社としての考え方がわかるように記載をしたいと思います。以上です。
1:37:22	はい。佐口です少なくとも今はわからないのでそこはよろしくお願ひしたいと思うんですけど。それと、ちょっとそれ関連しますけど、先ほどちょっと 62 ページの話が出たところもあって、
1:37:36	これ 62 ページで下か、もう確認したいんですけど、
1:37:40	いわゆるこの 2015 年って、この御前崎付近の群発地震みたいなことを言われていて、当時ちょっと確認をいろいろしたと思うんですけど、
1:37:50	この
1:37:51	2015 年の、
1:37:53	8 月とか 9 月のこの地震って、多分、御社は、
1:37:57	これってどう区をされると、いうことを確認されてたと思うんですけど。
1:38:04	それってまず合ってます。
1:38:19	あ、佐口ですけど、ちょっと私もうろ覚えなので何とも言えないんですけど、何か、
1:38:25	新聞なのかなプレスなのかな、いずれにしても、この
1:38:29	一連の地震で、いわゆるこれまでこう説明していた、敷地の中で、ちょっと増幅されるような傾向は確認できたみたいなのが、
1:38:40	どっかに多分出てたと思うんですけど。
1:38:43	そうしたときに、やっぱりこの今の使っている地震っていうのは増幅する。
1:38:49	何かあった場合ですよ。
1:38:52	で、御社は少なくとも、
1:38:54	この地震を、
1:38:57	要は、
1:39:00	実観測記録の位相を用いた方法に用いていて、
1:39:05	要はこれは特定せずで、適用適用というのが、使う地震としては適切なものだと判断されているわけなので、
1:39:16	そうすると、先ほどの関係。
1:39:20	画像区は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:22	考慮しなくていいんですと言いながら、いや実はこっち脳模擬地震はを作るときには、その増幅するような地震を使って、
1:39:32	検討していると。
1:39:34	いうちょっと何かその関係。
1:39:36	が私にはよくわからないんで、
1:39:38	そこを、
1:39:40	確認していただいた上でですねこの使ってる地震というのが実は増幅傾向にあるような地震だったかどうかというのを確認していただいた上で、
1:39:49	さっきの関係っていうのも、もう少しご説明いただきたいんですけど。
1:39:59	中部電力の岩瀬です。承知しました確認いたしますが今のご指摘は、
1:40:06	2015年の9月の1日の地震というだけでなく、この時の群発地震としての説説明とか分析結果がどうだったかと。
1:40:17	いうことも踏まえた、説明をすべきという、そういうご指摘という受けとめてよろしいでしょうか。
1:40:24	はい。規制庁佐田ですその通りなので、その62ページ見ると、ここの群発地震で起こってますけどこれ敷地のすぐ近くですよね当然
1:40:35	震源像としては、いわゆるその敷地近傍ってというのがすごく近傍かもしれないですけど、いわゆるその特定せず今回の標準応答スペクトルってものの、
1:40:46	市震源像とか地震像っていう部分に関しては合致しているわけで、
1:40:52	それが当然、敷地の中で、増幅傾向があったのかないのかっていうのをまず確認していただくっていうのと、
1:41:01	先ほどの関係ですよ。
1:41:04	実は観測記録では確認してると言いながらも、
1:41:08	実際に起こった地震でもそういう現象あるのかないのか、っていう関係が今のところ、
1:41:14	わかってないので、そこはまず明確にしていきたいという趣旨です。
1:41:24	中部電力の岩瀬です承知しました明確になるように、資料を修正したいと思いますありがとうございます。
1:41:32	はい。規制庁サグチ数、ちょっと引き続き、
1:41:36	やっぱ12ページ、10、11ページ12ページか。これも私ちょっとよくわからなかったのは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:44	比較は当然されているんですけど、
1:41:48	下線とか太字で書かれている部分、これが要は違いますよって御社は、
1:41:54	主張されてて、
1:41:56	逆に、
1:41:58	下線がない部分ですよ。例えば、例えば 11 ページの、
1:42:03	地質分布の一番最初のポツって、これは、
1:42:07	類似してるって、
1:42:09	見ていいんですか。
1:42:24	すみません具体的に 11 ページの一番上のどこの点でしょうか。すみません、11 ページの表の中の地質分布という地質・地質構造の。
1:42:36	地質分布というところの一つ、1 ポツに、中生代から新生代、
1:42:41	新第 3 系新鮮新統の云々っていう、ここって一切風がないんですけど、これは、
1:42:48	震源域と類似してるっていうそういうふうに理解していいのかどうかっていうところなんですけど。
1:42:58	中部電力の久松です。この下線、太字は強調したいところと、
1:43:12	強調したいところとして、
1:43:20	あ、はい、規制庁サグチさんの強調されたいっていうのは当然わかってるんですけど、いや何が言いたいかっていうと、
1:43:26	この例えば 11 ページだと、岩手宮城とそれから敷地周辺の中部電力の 1、
1:43:34	失礼しました。中部電力の久松です。
1:43:41	共通する部分と言えば、
1:43:43	そうですね。
1:43:47	規制庁佐口ですちょっと細かく言うんですけど、細かい点でいくと違いがあるんですが、
1:43:57	大きな違いではないので、
1:44:01	強調してないところがあります。規制庁、増川です。
1:44:07	聞こえてますサグチですけども。
1:44:10	はい、聞こえてます。わかりました。はい。
1:44:19	規制庁佐口ですけど、それはちょっと今の説明はよくわかんなくて、多少違いがあるんだけど、
1:44:27	強調したいところとしてして別にそうじゃないところっていう、何かそれって、ちょっとどうかかなと思って、あくまでも、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:36	関係性がわかるようにしていただいて例えばこの点は今後、ここが類似をしている別に類似してるから、
1:44:45	駄目だとかそういう話じゃなくて、そこはまず純粹に、震源域はどうであってそれに対して、敷地周辺はどうでというのをきちんと、
1:44:56	書いた上で、この点とこの辺が、
1:44:59	要は、地域差が認められるっていうことで、
1:45:05	収集の対象外とするんだよという多分そういう説明になると思うんですけど、今、何て言うんすかね。
1:45:15	違うところだけすごくピックアップしてやったのかい書かれているだけで、
1:45:21	本当に、
1:45:22	違うのっていうところを見たときに、先ほど少し話もありましたけど、
1:45:29	例えばですよ。
1:45:31	今下線引っ張ってないですけど、その 11 ページでフィリピン甲斐プレート沈み込みにより、付加体が発達しているって、
1:45:40	いうところ。
1:45:41	が敷地周辺の、
1:45:45	特徴なのかなっていうところあるんですけど、それと、この宮城、岩手宮城内陸地、地震の震源域と、
1:45:55	どういう対応にしなるのかっていう、
1:45:58	もうちょっと言うんですけどね。
1:46:00	左と右が一对一の対応してないんですよ。
1:46:04	左でこうなんだけど、右ではどうだと。
1:46:09	例えば、今同じところと言いますが、地質・地質構造の活断層の分布、
1:46:15	これは逆断層が分布している、岩手宮城では、でもそれに対して、敷地周辺で活構造は示されていない。
1:46:24	しかもこれって、
1:46:26	文献だけの話じゃないですか。
1:46:29	むしろこの地質・地質構造っていうのは、御社自体が調査した結果っていうのは、これ一切入ってこないんですかね後ろの方見ると何か。
1:46:38	ちょろっと書いてありますけど少し書いてあって、
1:46:41	でも何かこう、
1:46:43	活断層じゃないみたいな書き方してますけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:48	例えばですねはっきり言いますけど、御前崎台地の
1:46:52	幾つか、
1:46:54	断層ありますよね文献でもそうです御社が、
1:46:57	調査、調査として、
1:47:00	短いとかそういう話はあるかもしれないですけど、あれ活断層ですよ 確実に。
1:47:05	それって何でここに入っていないのかっていうのがよくわからないんです けど。
1:47:10	だから、御社の実質調査結果っていうのが、
1:47:15	少なくともこの 11 ページ 12 ページって反映されてるんですかね。
1:47:25	中部電力浜野でございます。
1:47:27	当社の調査結果っていうのはここに入れていないのと、先ほど一色さん からお話もありました通り、そもそも
1:47:38	鳥取県西部だとかですね岩手宮城っていうのが、どうして見つかりにく かったのかという要因に対してそれぞれ、
1:47:47	提示してるような項目がこういう特徴があって、法令に対して、うちの 状況っていうのは、
1:47:54	これだけ似通っていないので収集対象としないというところが、ちょっ と
1:48:01	表裏。
1:48:02	ざっくりまとめてしまっているがために、情報だけが多い割には、言い たいことが、
1:48:09	書いてないっていうことがつくづく
1:48:12	わかりましたんで、少し構成含めて見直しをさせていただきたいと思 いますもう少し、どういう理由で、
1:48:21	ここ、収集対象としなくていいか、全然、
1:48:25	正直言って全然違う場所ですよというところが、あるという部分もあ って先行事例を踏まえながら作っていたつもりなんですけども、もう少 しそのあたり、しっかり当社としての考えがわかるように、
1:48:40	修正させていただきたいと思います。
1:48:43	はい。規制庁佐口です。
1:48:45	少なくとも今見ると、
1:48:50	それはおそらくというかそう見た目は確実に違うってことはわかるん ですけど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:55	御社この前の品質保証のところ、
1:49:01	何か批判的な目線というのがキーワードとして入ってたんですけど、
1:49:07	そそういう目線が本当にちゃんと入ってますかという、まず、
1:49:12	地質・地質構造については当然、御社が調査したものっていうのは、多分ここは入れていただく必要は、
1:49:21	当然あって、その上で、当然類似する部分もあるんだけど、類似しない。
1:49:31	部分も当然あってというまず事実関係を確実にここは示していただいて、要は、都合のいいところだけをピックアップして書くんじゃなくてまずちゃんと事実関係を書いた上で、
1:49:45	こういう理由で違うんです。地域性が見られるしかもこれ、地域性という、言いながらもこれ書いてあることは、
1:49:54	なんでしたっけ。
1:49:56	最後の
1:49:58	二つ目の四角っていうところで、
1:50:01	地形の特徴の関係において地域差が認められる。
1:50:05	多分、我々そんなことを、
1:50:07	求めているのかなとか、
1:50:10	多分、
1:50:11	何ていうか先行サイトのその許可のときの審査書なんか見ていただければわかると思うんですけど、地震学的にとか、地質学的にっていう文言を多分使ってると思うので、
1:50:22	こんな、正直言うと、地形の特徴の関係っていうだけだと、
1:50:28	ちょっと違うかなっていうのがありますのでそこはやっぱりここはきちんとですね、もう少しまとめていただければと思いますのでよろしくお願ひします。
1:50:42	はい。中部電力天野でございます。ありがとうございます。
1:50:47	バックデータとかそれぞれどういう違いがあるかっていうのは後段の方で、石川が説明してるに添付はしているんですけど、ちょっとそこをどう考えたかっていうのが、全然、
1:50:58	浅尾さんがおっしゃる通り、用命なくなってますので、しっかり再度整理し直したいと思います。
1:51:07	規制庁谷ですけどちょっと関連で、さっき佐口さんが言ってる中に包含されるような話なんですけど、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:14	12 ページで、
1:51:16	鳥取県西部地震、
1:51:19	震源域の説明で、何か買ったの。
1:51:24	地質・地質構造の活断層の分布で、
1:51:27	最後括弧して、未成熟な段階にあるっていうのが、括弧書きで書かれてるんですけど、これって先行サイトって、これはこれは大事な項中、
1:51:40	こう違いなんだみたいな感じで強調されてたところではあるんですね。で、これが、
1:51:47	全然強調されてなくてこの点はあれなんですか
1:51:53	玉岡だったらこれ成熟しているか未成熟かでいうと、御社はどう考えてるんですか、今のこの。
1:52:02	活構造は示されていないっていうのは未成熟だっていうようなそういう意味で書かれてるっていうことなんでしょうか。
1:52:12	中部電力の久松でございます。これこそ地域ごとに観点が違ってきてまして浜岡の場合、
1:52:23	プレート間地震、プレートの沈み込みたいということでプレート間地震が主体ですのでその上に断層が発達するかどうかという意味でいくと、これから発達していくような、
1:52:36	未成熟な段階にあるとかないとかそういうところでもないですので、そういう意味では、ここに書かれている通り、活構造が示されていなくてかつ、
1:52:48	活断層自体がそもそも、
1:52:50	これから、今後もですね発達していくような場ではないということで考えておりますので、未成熟とか、
1:53:00	未成熟じゃないという、
1:53:01	企画にならないといえますか。
1:53:05	こういうか仕方になっております。
1:53:09	そういったことを書かせていただきます。
1:53:14	層相ですね 12 ページでこの対比をされると、さっきの久松さんの話は全くこれ通じてこの伝わってこない書き方になってて別にこれって、
1:53:26	11 ページと 12 ページで敷地周辺全く同じことを書く必要もないのかなというふうにも思いますし、しっかりとそのどう考えてるかっていうのを説明してもらった必要があるページだと思ってますのでよろしくお願ひします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:42	承知しました。
1:53:51	はい。規制庁、佐口ですけども、あともう1点だけちょっと細かいですけど、
1:53:59	66ページのところ
1:54:03	これ、
1:54:05	あくまでもその時刻歴は系の共振分の継続時間とか、あと、
1:54:12	包絡形状、
1:54:13	で書かれていますけど、いや、実はこれ、最大加速度とかって御社あんまり重要視されていないんですかね。
1:54:43	中部電力の岩瀬です。応答スペクトルの比較で全体的に見たという形で今回整理させていただいて最大加速度も、
1:54:52	そんなに大きな違いはないかなという形で、
1:54:56	見ている事先方齋藤においても特に
1:55:02	最大加速度に1をすべからく触れていたわけでもないことを見てみましたので、特に触れなかったということですけども、
1:55:12	我々の考え方としては以上です。
1:55:19	はい。規制庁佐口ですじゃあ先行サイトとかももう少し見ていただければと思いますけど。
1:55:26	むしろ、触れてないところって、例えば今で言う観測記録の方が最大加速度が大きくなっちゃって、あえて言うともずいとか、そういう、
1:55:35	事情も何かあったのかなとか思いつつ、でも御社の方は確実に一様乱数の方が大きくなってるので、
1:55:45	別に御社としてあんまり最大加速度なんて関係ないよっていうのであれば、別にいいですし、そうじゃなくて当然最大加速度だって、重要なファクターが一つで考えられてるんだったら、
1:55:57	そこは記載していただければと思うんですけどそこは
1:56:01	お任せします。
1:56:04	はい。中部電力の岩瀬です。ご指摘ありがとうございます今のいただいたコメントを踏まえて記載について再度検討させていただきたいと思います。
1:57:45	規制庁谷ですけどタジマさんとかは特にないですか。
1:57:51	はい。大丈夫です。
1:58:04	何かあります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:11	はい。それでは、時間になりましたのでヒアリングの方、第1回目のヒアリングはこれで終了ということで、
1:58:18	一応何点か注文をつけてるので資料修正特にその意味記載の意味合いとかですわわからん誤開しそうな部分は直していただいた上で、
1:58:29	その資料で、2回目のヒアリングを、
1:58:34	やりましょうということで、
1:58:35	そんなに時間はかからないのかな新しく何か検討したりとかっていうものではないですね、今日の話出たものであれば、
1:59:11	ちょっとでき、でき上がりそうになったら言ってください。
1:59:17	はい。中部電力浜野です。資料、しっかり仕上げて、また、でき次第、ヒアリングの方申し込みをさせていただきたいと思います。
1:59:28	ちょっと教えていただきたいというか、
1:59:35	プレート管理の津波が、冒頭の全体像が見えないってということで、1回審査会合が延期となったことも踏まえまして我々として今回の資料も冒頭に、
1:59:48	全体像が見えるような形で整理をさせていただいて今日持ってきました。やっぱりちょっと10ページのところ、
1:59:59	中身がやはりしっかり伝わらないとかですね、岩手宮城だとか鳥取清家西部のところも、
2:00:07	我々の考えたことがしっかり出てないってところで、下、こういったところをしっかりと直して参りますけど、ボリューム感とか。
2:00:18	過不足、もう少しこういうページも概要に入れとくべきじゃないかっていうような観点においては、
2:00:26	大体今日ご提案したような方がご説明したようなイメージでよろしいでしょうかまた、
2:00:33	冒頭が足りないといって、審査が飛ぶのも非常に会社としては辛いものですから、
2:00:40	もし、そのあたりで、こういうページも入れておく必要があるのではないかというご指摘があれば、今回合わせて、対応したいと思いますので、
2:00:52	ご確認の方よろしくお願ひしたいです。
2:00:56	はい。
2:00:58	少なくとも、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:01:00	何とか基本方針というか、こういう方針こういう考えで、我が社は標準をどうスペクトル留萌
2:01:07	で検討しておりますが出てきてるので、
2:01:11	ちょっとすまプレート間のようなことにはすぐはならないとは思いますが、
2:01:15	あとすいません、補足説明資料なんすけど、今日結局1回も使われていないし、
2:01:23	しかもそのついてるのっていうのは過去の会合資料そのままどかっと束ねましたっていうだけなので、こここれだったら
2:01:31	これを補足説明資料として会合で出すのはどうかなと思います。これだったらいらなと思いますよ。特定せずのこの検討に必要なんだけども本体に載せるほど、
2:01:43	2 枠はしすぎるっていうのを補足に落とすならいいんですけど、
2:01:48	何ていうか
2:01:49	何かあったために特定してるものをそのままボンとつけましたっていうんだったら、ちょっとそれを会合に出すっていうのは、これはちょっと違うんじゃないかと思しますので、今のこの補足説明資料だったらこれをこれを会合に出して、
2:02:02	使うんだったら、本体の方をしっかりと作り込むか。
2:02:06	本体ながら細かすぎると思うものを補足とか参考に落とすかとかをご検討ください。
2:02:13	はい中部電力天野です。
2:02:15	先ほど石川がご説明させていただいた通りの1次元モデルみたいなところが、保守的にやっていますよというような、Bをつけているような形になってまして、
2:02:28	昔の資料とひもづけだと、また、
2:02:32	ご覧いただくのに時間かかるかなと思って抜粋してきたっていうのが本音のところでございます。で、これもまた、
2:02:42	各本体に書きすぎるとまたボリュームが増えていってしまうと、いう観点で今回は補足にさせていただいたと思っておるんですけど、
2:02:53	やっぱちょっと邪魔しますかね邪魔するようであれば、紐付けにするか、ごく中のところだけ抜粋にするかとちょっと検討させていただきたいなと思いますが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:07	はいちょっと今本当に、何かこの会議の資料そのままつけましたっていうだけなので、
2:03:13	きちんと本体のところで端的に、いやSGFモデル。
2:03:18	ウワー、特定してと同じ共通のモデルで、こういうところを使いますと。
2:03:22	説明できてさえいればあんまりこのSGFモデルのそもそものですよ、話、そういえば何だったっけっていうふうにならないようなものに構築して、しておいてさえくれば、
2:03:34	これはいらんんじゃないかっていう話です。
2:03:40	中部電力天野です。承知しました。ちょっと、私たちの方で1回考えてみます。よりスマートな形でご理解いただけるというご説明できるような形を、
2:03:52	あえて聞き参ります。はい。
2:04:02	はい。とりあえず資料の方でき上がったら、ヒアリングということで、
2:04:07	言うし申し込んでいただくということでよろしくお願いします。では、
2:04:11	おかなければヒアリング終了いたします。はい、他なければ終了したいと思います。
2:04:17	よろしいですか。
2:04:18	ではヒアリング特定整備のためのヒアリングを終了しますお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。